

再評価結果(令和8年度事業継続箇所)

担当課:道路局 環境安全・防災課
担当課長名:水野 宏治

事業名	地高ICアクセス 主要地方道宇都宮向田線 平出板戸Ⅱ期工区			事業区分	地方道	事業主体	栃木県
起終点	自:栃木県宇都宮市下岡本町 至:栃木県宇都宮市板戸町					延長	1.0km
事業概要							
<p>主要地方道宇都宮向田線は、地域高規格道路「常総・宇都宮東部連絡道路」へのアクセス道路として広域道路ネットワークを形成する路線であり、交通拠点の宇都宮駅から新4号国道や一般国道408号を横断し、鬼怒川左岸の工業団地群にアクセスする、産業・経済活動を支える重要な路線である。</p> <p>本事業は、地域高規格道路「常総・宇都宮東部連絡道路」の整備と一体となって行うことで、交通渋滞の緩和、物流の効率化および地域間の連携・交流の促進を目的とし、バイパス道路の暫定2車線区間である橋梁部(板戸大橋)延長1.0km区間における4車線化を整備するものである。</p>							
R5年度事業化		-		-		R5年度工事着手	
全体事業費		約89億円		事業進捗率		約35% 供用済延長	
計画交通量		25,700台/日					
費用対効果分析	B/C (事業全体)	EIRR (事業全体)	総費用 (残事業)/(事業全体) 49/85 億円		総便益 (残事業)/(事業全体) 114/114 億円		基準年
	1.3	5.8 %	(事業費: 48/84 億円)		(走行時間短縮便益: 104/104 億円)		令和7年
	2.0 [2%]		(維持管理費: 0.71/0.71 億円)		(走行経費減少便益: 7.9/7.9 億円)		
	2.5 [1%]		(更新費: -/- 億円)		(交通事故減少便益: 1.6/1.6 億円)		
	(残事業)	(残事業)	(事業全体)		(残事業)		
2.3	10.8%	交通量	B/C=1.8~2.2(±10%)		交通量	B/C=2.1~2.6(±10%)	
3.4 [2%]		事業費	B/C=1.8~2.2(±10%)		事業費	B/C=2.1~2.6(±10%)	
4.1 [1%]		事業期間	B/C=1.9~2.1(±20%)		事業期間	B/C=2.2~2.4(±20%)	
事業の効果等							
<p>①当該事業の整備により、県央地域の東西交通軸が強化されることで、地域間の連携・交流の促進が期待される。</p> <p>②当該事業の整備により、物流ネットワークが強化されることで、県内の工業団地における製造品出荷額の約4割を占める鬼怒川左岸地域の工業団地群における産業・経済活動の支援につながると期待される。</p> <p>③当該事業の整備により、現道交通がバイパスへ転換することで、慢性的な交通渋滞の解消や交通事故が削減され、バイパス機能の強化が期待される。</p>							
関係する地方公共団体等の意見							
<ul style="list-style-type: none"> ・宇都宮市から本事業の早期完成の要望活動が行われている。 ・宇都宮市、芳賀町、高根沢町の1市2町による鬼怒川新橋整備促進期成同盟会から本事業の早期完成の要望活動が行われている。 ・芳賀町工業団地連絡協議会から本事業の早期完成の要望活動が行われている。 ・県計画「県土づくりプラン2021」において、重点施策に位置づけられている。 ・県計画「とちぎの道路・交通ビジョン2021」において、一般広域道路「宇都宮・水戸連絡道路」に位置づけられている。 							
事業評価監視委員会の意見							
栃木県公共事業評価委員会において審議を経て、事業継続が妥当と判断。							
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等							
令和7年1月に野高谷立体1.5km区間を4車線で部分開通。							
事業の進捗状況、残事業の内容等							
用地進捗率100%、事業進捗率約35%。							
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等							
今後は早期完了を目指し、4車線化工事を推進していく。							

施設の構造や工法の変更等

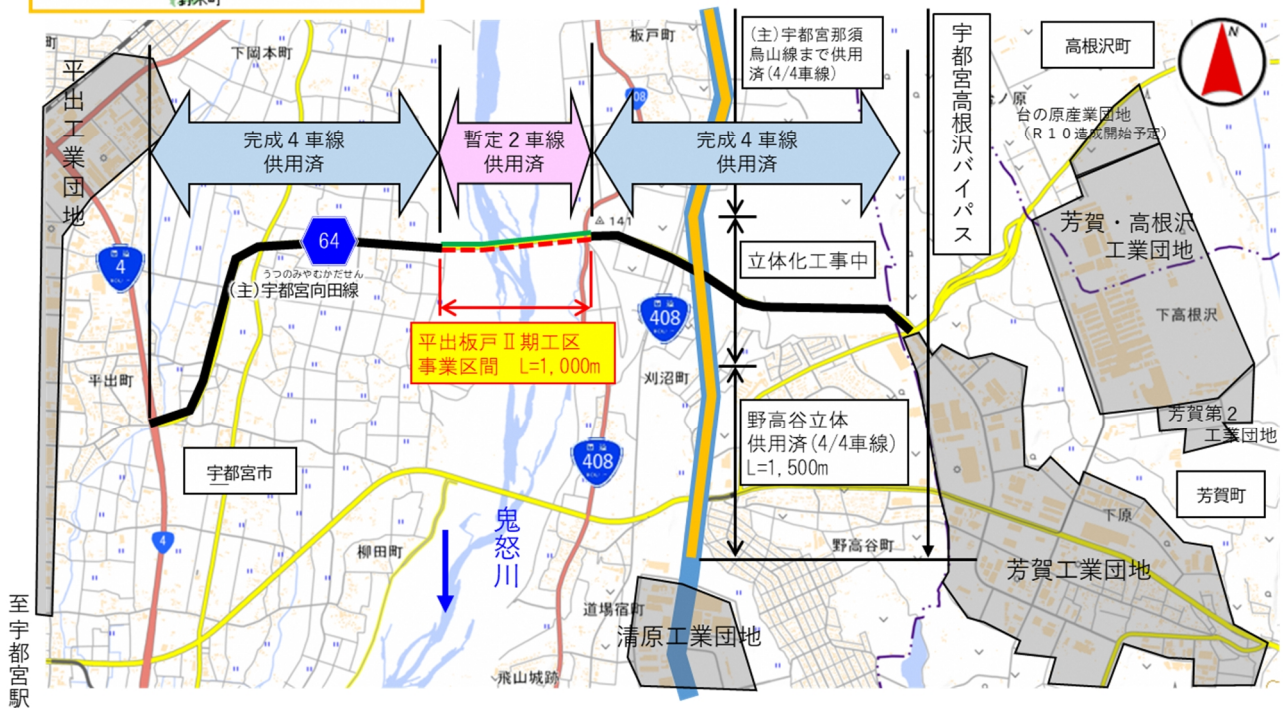
- ・橋梁上部工の合理化構造の採用によりコスト縮減を図る。
- ・再生骨材、再生アスファルト合材を積極的に活用しコスト縮減を図る。

対応方針 事業継続

対応方針決定の理由

事業の必要性、重要性は変化なく、費用対効果の投資効果も確保されているため。

事業概要図



	4車線供用済
	2車線供用済
	評価区間
	常総・宇都宮東部連絡道路
	関連事業

※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価格に社会的割引率(4%)を用いて基準年の価値に換算し集計したもの。

※B/Cの値は、社会的割引率4%を用いて計算した場合の費用便益分析結果。また、比較のために参考とすべき値として1%及び2%を設定し、それに対応する費用便益分析結果を参考として併記している。(〔 〕内は社会的割引率の値)